

日本ナレッジ・マネジメント学会

第 25 回定時会員総会資料

日時：2022 年 5 月 28 日（土曜日）10:00～12:30

場所：ZOOM ミーティング

< 議題 >

第 1 号議案 第 24 期(2021 年度)活動報告及び決算報告案承認の件

第 2 号議案 第 24 期(2021 年度)会計監査報告の件

第 3 号議案 第 25 期(2022 年度)活動計画及び予算案承認の件

< 本学会会員の状況 > ※2020 年度、2021 年度会費納入数

	2021 年 3 月末	2022 年 3 月末	前年比
個人会員	117 名	124 名	7 名増
法人会員	9 社 10 口	9 社 9 口	1 口減

第 1 号議案 第 24 期(2021 年度)活動報告及び決算報告承認の件

第 24 期(2021 年度)活動報告

第 24 期における学会事業の実施内容は以下の通りである。

I. アドミチームの活動

1. 総務会計

(1)定時会員総会

第 24 回定時会員総会

日時 2021 年 5 月 29 日 (土) 10:00-11:30

場所 ZOOM

議題 第 1 号議案 第 23 期(令和 2 年度)活動報告及び決算報告案承認の件

第 2 号議案 第 23 期(令和 2 年度)会計監査報告の件

第 3 号議案 第 24 期(令和 3 年度)役員人事

第 4 号議案 第 24 期(令和 3 年度)活動計画及び予算案承認の件

第 5 号議案 年会費について

議案の通り承認された。

(2)理事会

①第 37 回理事会

日時 2021 年 4 月 29 日 (木) 17:00-18:30

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1 : 第 24 回定時会員総会について

決定事項: プログラム内容、役割分担、欠席確認方法、総会資料の確認を行った。

議案 2 : 年次大会について

決定事項: 日程の候補日を決め、年次大会リーダーの中鉢欣秀東京都立産業技術大学院大学教授と調整。テーマは理事会で検討継続となった。

議案 3 : その他

(1) DX 連続講座の実施の報告があった

(2) 日本規格協会からの原稿執筆依頼へ対応する

(3) 学会誌の投稿規定の変更手続きを次回理事会で提案する

②第 38 回理事会

日時 2021 年 7 月 4 日 (日) 16:00-17:30

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1 : 第 24 回定時会員総会レビュー

決定事項: オンラインアンケートの取り方を、より回答しやすく回答率を上げるために次回に再検討する。

議案 2 : 会員増加策について

(1)法人会員について: 法人会員 3 名、学会誌 3 冊、大会参加原則として 10 名を確認。その他法人会員のメリットや企業とのコラボなどは検討を継続する。

(2)個人会員のフォローについて: 会員間のコミュニケーションがとれるように SNS (Facebook の非公開 G など) の活用を、広報と総務アドミで検討継続する。

議案 3 : コンサル紹介依頼の件

決定事項: 紹介の依頼が来た場合、学会はオープンなネットワーキングな場であるので、会員の紹介やネットワーキングの機会を提供し、学会に関心を持つ方を増やす。

議案 4 : 第 24 回年次大会について

決定事項: 開催日は 12 月 5 日、テーマは理事会で検討を継続する。

議案 5 ; 海外アドミ活動計画の詳細化報告

決定事項: コロナ禍のため、オンラインでの開催を検討継続する。

議案 6 : 広報より

(1) 国立国会図書館からの HP 情報収集とアーカイブの依頼: 許諾する。

(2)メルマガ改革: 研究部会や大会、事務局が管理している名簿の活用とネットワーキングやコミュニティづくりを連携させた場のデザインを広報と総務で検討する。

議案 7 : その他

(1) 日本規格学会の原稿執筆依頼について: 執筆完了し、日本規格学会 HP に掲載された。

(2) 会員総会アンケートで運営に参加したいと回答した方について: 積極的な参加をお願いする。

(3)HP のデザイン改定: 今後検討する。

(4)学会誌への投稿: 投稿を呼びかける。

③第 39 回理事会

日時 2021 年 9 月 5 日 (日) 16:00-17:50

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1 : 広報活動のリニューアル

決定事項: HP 更新はプランと予算外でも執行する理由を次回の理事会で説明する。

メルマガは、各部会はそれぞれで運用する。

学会のメルマガへの要望は各理事から意見を求める。

議案 2：第 24 回年次大会について

決定事項：日程 12/5 (時間は今後決める)

- ・体制 実行委員長 中鉢先生
大会世話人代表 植木先生
- ・テーマ 委員長、世話人代表、世話人チームで骨子を作り次回理事会にはかる。
- ・コミュニケーション slack を作る (田村)
- ・次回理事会から年次大会に関する議題は植木理事から報告する

議案 3：学生会員について

決定事項：学生会員とする場合は学生証の提示をお願いする。

④第 40 回理事会

日時 2021 年 10 月 16 日 (土) 16:00-18:00

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1：第 24 回年次大会について

決定事項：パネリストに一條会長に入らせていただくこととする。

参加費用は会員/法人会員無料、学生無料、一般参加者 ¥1100 とする。

後援者の所属企業 (NEC) は法人会員扱いとする。

議案 2：広報活動のリニューアルについて

- (1) ホームページリニューアルについて：刷新の方針については了解とするが、目的をあらためて整理する。次回に対応スケジュールと見積もりを提示する。
- (2) メルマガの運営方法について：slack で検討を進める。

議案 3：上期活動レビューについて

決定事項：各アドミリーダー、研究部会長から Google Drive に格納した資料をもとに説明を行い、進捗状況を確認した。

⑤第 41 回理事会

日時 2021 年 11 月 28 日 (日) 16:00-17:35

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1：第 24 回年次大会について

決定事項：各理事から会員や部会参加者へ参加を奨励する。

パネリストを一條会長から西原理事へ変更。

議案 2：ホームページのリニューアルについて

決定事項：学会の目指す方向を資料の内容で合意した。産学の若手の入会を促進する。

- ・広報チームとしては、まず HP の改修に取り組みメルマガは当座は偶数月

発行のまま運用し、HP 改修後に詳しく検討する。

- ・ 詳細検討のため広報チームメンバーの理事会へのオブザーブ参加を認める。
- ・ 来期の予算計上のために、要件を決めて、その要件で相見積もりを取る。

⑥第 42 回理事会

日時 2022 年 1 月 30 日 (土) 16:00-17:30

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議案と結果

議案 1 : 第 24 回年次大会結果報告について

決定事項 : 来期は、総会が終わったら年次大会の準備を始める

議案 2 : 学会誌について

決定事項 : インターネットから得た情報を執筆に使うことを前提に修正する。

研究ノートとケーススタディについて査読条件の「否」の表記を改める。

議案 3 : 広報活動のリニューアル

決定事項 : これまでの議論を企画書にまとめ、理事会、総会で承認を得る。

・ 費用が発生する作業は来期の予算が承認されてからの着手とする。

⑦第 43 回理事会

日時 2022 年 2 月 27 日 (日) 16:00-17:30

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議題と決定事項

議案 1 : 各研究部会、アドミの実績と計画について

決定事項 : 講師謝礼の振込手数料は、各部会の予算として扱う。

- ・ 来年度に向けて研究部会の活動について全体像を可視化していく。
- ・ 研究部会の開催日がバッティングしないよう事前調整を仕組み化する。

議案 2 : 法人会員の拡充について

決定事項 : 情報を整理し、フォローする。

その他 : 2022 年度も会員総会と年次大会は別日程とする。

・ 定時会員総会は 5 月 28 日(土)10-12 時に ZOOM で行う。

⑦第 44 回理事会

日時 2022 年 3 月 27 日 (日) 16:00-18:00

場所 オンライン会議 (ZOOM)

議題と決定事項

議案 1 : 令和 3 年度仮決算報告

決定事項 : 報告資料どおり。指摘は無し。

議案 2 : 令和 4 年度予算案の検討

決定事項：検討結果を会員総会に諮る

議案 3：ホームページリニューアル企画書（案）の検討

決定事項：内容を改善し、slack にて共有する。次回理事会での継続検討とする。

議案 4：会員総会プログラム

決定事項：3つの議案以外にも会員参加の企画を実施する。

全体として整合性のとれた企画とするようコーディネーターを決めて進める。

案) ①村上理事発表（企業での KM の取り組み、ツール、スクラム）

②田村理事発表（法人会員参加の目的、実践上の課題）

③KM を実務に適用する際の課題に対する解決案、意見交換

議案 5：法人会員拡充について

決定事項：今回挙がったアイデアを含め、総務会計アドミにて対応を整理する。

2. 大会・研究会

日時 2021 年 12 月 5 日（日）

場所 ZOOM ミーティング

テーマ 変化のビッグウェーブにおける多面的価値の共創

～イノベーションの社会実装に果たす KM の役割～

大会委員長 会員 大会リーダー 会員 中鉢欣秀 大会世話人 理事 植木英雄

開会挨拶 会長 一條和生 司会進行 理事 植木英雄

内容

1 基調講演：笹谷秀光氏（千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長）

テーマ：「まちづくり DX、SDGs への取り組みから価値共創の未来まちづくりへ」

2 特別講演：受川 裕 氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長

兼 スーパーシティ事業推進本部長）

テーマ：「NEC が目指す未来のまちづくりと全体最適によるスマート化」

3 パネルディスカッション

テーマ：「まちづくり DX への取り組み～全体最適なスマート社会への転換に向け

たイノベーションの社会実装の課題と KM の役割」

司会/コメンテータ:中鉢欣秀氏(大会リーダー・東京都立産業技術大学院大学教授)

パネリスト：西原文乃氏(理事・立教大学経営学部准教授)

笹谷秀光氏(千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長)

受川 裕 氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長

兼スーパーシティ事業推進本部長)

チャットによる質疑：参加者全員

4 研究部会 2020 年度活動報告、2021 年度活動方針計画発表

5 研究発表

研究発表 1

論題：「心理的安全性は知識創造スパイラルを生み出す」

報告者：渡辺美砂子会員（エーザイ株式会社）

榊原惇志氏（ピースマインド株式会社）

研究発表 2

論題：「地域型クリエイティブプロジェクトを通じた非営利組織の理念継承」

報告者：但馬智子氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科協力研究員）

西中美和会員（香川大学大学院地域マネジメント研究科教授）

研究発表 3

論題：「会社づくりにおける価値の共創—株式会社 ISOWA の風土改革—」

報告者：池田章子会員（17:00 明治大学特定課題研究ユニット研究員）

6 閉会の辞 植木英雄 大会世話人代表

3. 海外

KMGN 定例会 ZOOM 出席 9月30日 各国の活動報告

KMGN 定例会 ZOOM 出席 1月14日 メンバー拡大

年次総会 開催せず

4. 学会誌 「ナレッジ・マネジメント研究」の発行

誌名：ナレッジ・マネジメント研究第 19 号

発行部数：180 部

配布先：個人会員 120 部、法人会員 24 部、

法人・個人勧誘用 6 部、予備 30 部

内容：

論文

後進層から期待されるベテラン経験知の価値とその移転

……………細野 一雄、内平 直志、遠山 亮子

ケーススタディ

企業における新規事業提案制度の取り組み

……………大崎 達哉、内平 直志

研究ノート

ナレッジ・マネジメントの組織浸透を促進する 3 つの実践ポイント

…………… 迫田 苑子

第 23 回年次大会講演録

基調講演 日本における DX と新型コロナ禍にある共通の問題

……………一條 和生

講演 ニューノーマルと共感資本主義

……………堂本 卓生

5. 広報

(1)HP 更新による適時適切な情報共有の実施

(2)日本ナレッジ・マネジメント学会メールマガジンの発行

・第 138 号

発行日	2021 年 4 月 9 日
内容	◆第 24 回年次会員総会のご案内 ◆DX 連続講座 第 4 回のご案内 ◆DX 連続講座 第 5 回のご案内 ◆学会誌第 20 号投稿の募集案内 ◆リレーエッセイ ◆本学会事務局からのご案内 ◆編集後記

・第 139 号

発行日	2021 年 6 月 8 日
内容	◆第 24 回定時会員総会開催のご報告 ◆「ISO 30401:2018 Knowledge management systems Requirements 英・日対訳版」発行のお知らせ ◆第 54 回知の創造研究部会 7/30 のご案内 ◆第 4 回ソーシャルメディア研究部会 7/20 のご案内 ◆自著を語る:「都市のレジリエンスを高めるために: Management of science-intensive organizations: Catalyzing urban resilience.」 ◆学会誌第 20 号投稿の募集案内 ◆リレーエッセイ ◆本学会事務局からのご案内 ◆編集後記

・第 140 号

発行日	2021 年 8 月 10 日
内容	◆読者の皆様へ 残暑見舞い申し上げます ◆学会誌第 20 号投稿の募集案内 ◆リレーエッセイ ◆本学会事務局からのご案内 ◆編集後記

・第 141 号

発行日	2021 年 10 月 12 日
内容	◆第 24 回年次大会骨子 ◆第 24 回年次大会自由論題の報告者募集について ◆学会誌第 20 号投稿の募集案内

- ◆第 55 回知の創造研究部会 11/4(木)のご案内
- ◆第 55 回知の創造研究部会 11/4(木)のプログラム
- ◆実践ナレッジ・イノベーション研究部会_2021 年 10 月度
- ◆ソーシャルメディア研究部会_第 5 回_10/26(火)のご案内
- ◆(☆)オーエスジー株式会社の研究成果発表会を開催いたします
- ◆リレーエッセイ
- ◆本学会事務局からのご案内
- ◆編集後記

・第 142 号

発行日 2021 年 11 月 2 日

- 内容
- ◆第 24 回年次大会の参加ご案内
 - ◆学会誌第 20 号投稿の募集案内
 - ◆第 55 回知の創造研究部会 11/4(木)のご案内
 - ◆第 55 回知の創造研究部会 11/4(木)のプログラム
 - ◆本学会事務局からのご案内
 - ◆編集後記

・第 143 号

発行日 2021 年 12 月 10 日

- 内容
- ◆第 24 回年次大会の概要報告
 - ◆学会誌第 20 号投稿の募集締切日の延長案内
 - ◆リレーエッセイ
 - ◆本学会事務局からのご案内
 - ◆編集後記

・第 144 号

発行日 2022 年 2 月 10 日

- 内容
- ◆第 24 回年次大会 (12/5) の報告 詳細特集
 - ◆第 56 回知の創造研究部会 2/22 (火)のご案内
 - ◆第 57 回知の創造研究部会 15 周年記念 3/26 (土)のご案内
 - ◆実践ナレッジ・イノベーション研究部会 2022 年 2 月度部会のご案内
 - ◆新産業革命研究部会のご案内
 - ◆リレーエッセイ
 - ◆本学会事務局からのご案内
 - ◆HP 内_学会員専用ページのパスワード変更のお知らせ
 - ◆編集後記

(3)HP リニューアル企画検討

6. 渉外

- ・関係各省庁等へのアプローチを実施し、交流を深める。
⇒経済産業研究所（特許庁）,内閣府
- ・法人会員増強チームとして各研究部会と連携し、DX 連続講座を 3 回企画、実施済。
 - 第 4 回 2021 年 4 月 21 日 テーマ：ヒューマンセントリックな DX 戦略 連携先：実践ナレッジ・イノベーション研究部会
講師：今井俊哉様（Ridgelines 株式会社 CEO）
 - 第 5 回 2022 年 5 月 21 日 テーマ：新しい社会システムの兆し『人』『組織』『経済』『社会』 連携先：ソーシャルメディア部会
講師：武井浩三（たけい こうぞう）氏 社会活動家、社会システムデザイナー
 - 第 6 回 2022 年 3 月 30 日 「総合知とナレッジ・マネジメント」
講師：内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 合田哲雄

II. 研究部会の活動

1. 東海部会 部会長 大西幹弘 代表世話人 栗本英和

(1)活動実績

愛知県豊川市に本社を構える切削工具メーカーのオーエスジー株式会社様を企業調査プロジェクトの対象企業として、2021 年 9 月 15 日にトップインタビューを実施した。10 月 19 日には「高成長・高収益企業に学べ！ ナレッジと業績アップの オンラインセミナー」と題して研究成果発表を行った。

2. 知の創造研究部会 部会長 植木英雄 代表世話人 植木真理子

(1)活動実績

- ・第 54 回研究部会 7 月 30 日（金）ZOOM オンライン
 - 1. 研究報告:酒瀬川泰孝氏(NTT データ、立教大学兼任講師)
テーマ:「DX 時代の知識創造の人材育成～知識創造を指向した PBL の構築と IT 企業 A 社における実践～」
 - 2. 講演:戸坂哲也氏 本田技研工業(株)二輪事業本部ものづくりセンター
テーマ:「ナレッジ・マネジメントから学ぶ～「知を創造する経営」とホンダでの実践からの気づき」
コメント:植木真理子 拓殖大学教授 司会:植木英雄 研究部会長
- ・第 55 回研究部会 11 月 4 日（木）ZOOM オンライン
講演:内平直志先生(北陸先端科学技術大学院大学副学長・教授、)
テーマ:「AI・IoT 時代のイノベーションマネジメント:中堅・中小企業の取り組み事例と IoT イノベーションデザイン」
- ・第 56 回 2 月 22 日(火)
研究報告:井上杜太郎氏(JRCS 株式会社, 北陸先端科学技術大学院大学博士後期

課程 D2)

テーマ:「リモートメンテナンスにおけるナレッジ・マネジメント」

コメンテータ:西中美和 香川大学大学院教授 司会:植木英雄 研究部会長

講演:戸谷圭子先生(明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授)

テーマ:「製造業のサービス化戦略の実態と価値共創」

・第 57 回 3 月 26 日(土)

基調講演:保井俊之先生(叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授)

テーマ:「主観的ウェルビーイング(幸せ,健康,福祉)を考慮したシステムデザイン方法と幸せの経営」

パネルディスカッション:「ウェルビーイングの価値共創と共生社会の未来構想」

発表 2:杉山大輔先生(桜美林大学国際学術研究科特任教授)

発表 3:西中美和先生(香川大学大学院地域マネジメント研究科教授)

3. ソーシャルメディア研究部会 部会長 荒木聖史 代表世話人 清水美也子

(1)活動実績

・2021 年 5 月 21 日

テーマ : 「新しい社会システムの兆し～『人』『組織』『経済』『社会』～」

講師 : 武井浩三氏 社会活動家、社会システムデザイナー

・2021 年 7 月 20 日

テーマ : 「共感が資本となり、活動が生まれる共感資本社会とは？
～ソーシャルキャピタルの積み上げによる社会創造～」

講師 : 岩波 直樹氏 株式会社 eumo 取締役 ユーモアカデミーディレクター、
一般社団法人 ユーダイモニア研究所 理事、株式会社 ワークハピネス
Co-Founder

・2021 年 10 月 26 日

テーマ : 「同期ー非同期、対面ーオンラインを融合した共創空間における参加型社会、プロジェクトセントードデザインによる教育や組織、人間と AI が共創するデジタルファシリテーション」

講師 : 田原真人氏 参加型社会学会会長 国際ファシリテーターズ協会日本支部 (IAF Japan)理事

・2022 年 2 月 9 日

テーマ : 「2022 年、私たちの思考の状況はどうなっているか。」

講師 : 橘川幸夫氏 メディア・プロデューサー、出版編集者、マーケットター、コンサルタント。株式会社デジタルメディア研究所所長。

4. ISO 等標準化研究部会 部会長 齋藤稔

(1)活動実績

1. 「ISO 30401:2018 Knowledge management systems – Requirements」の和文対訳版の監修
2. 日本規格協会の特集コラムへの寄稿
3. KM 関連国際標準の動向把握

5. 新産業革命研究部会 部会長 田原祐子 代表世話人 田村直樹

(1)活動実績

- ・2021 年 11 月 18 日「Purpose「意義化」とナレッジ・マネジメント」
講師：岩崎博論氏 武蔵野美術大学教授
- ・2022 年 1 月 20 日「デザイン経営とナレッジ・マネジメント」
講師：西垣淳子氏 経済産業研究所
- ・2022 年 2 月 24 日 「エネルギーとナレッジ・マネジメント」
講師：古舘恒介氏
- ・2022 年 3 月 30 日 「総合知とナレッジ・マネジメント」
講師：合田哲雄氏 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官

6. 実践 SDGs 経営研究部会 部会長 高山千弘 代表世話人 矢澤洋一

(1)活動実績

開催	企画名	共同社
7 月 8 日	セミナー：「知識創造理論」を活かしたアウトサイドインの実践	グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
9 月 3 日	討論：SDGs アクション 社会実装フレームとしての TCF（トランス・コーポレート・フィールド）	グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

7. 実践ナレッジ・イノベーション研究部会 部会長 西原文乃 代表世話人 穂積義剛

(1)活動実績

開催日	ご登壇者
4 月 21 日(水)※	Ridgelinez 今井俊哉 CEO 様 ※DX 連続講座変革
5 月 19 日(水)	出光興産 小林総一上席執行役員様 小型電気自動車地域の実証実験
6 月 16 日(水)	ウィルウィンド富田直子様 長野土建様 SDGs のすごい会社
7 月 21 日(水)	富士フイルム 星野俊彦様 富士フイルム様の CSR
8 月 25 日(水)	株式会社 Zentech 石井遼介様 心理的安全性

9 月 15 日(水)	富士フイルム 小島健嗣様 富士フイルム様の R&D
10 月 20 日(水)	アクセラテクノロジ様
12 月 15 日(水)	来年度活動ワイガヤ
2 月 16 日(水)	スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 (SSIR-J) 出版記念講演 中嶋愛様、井上英之様
3 月 16 日(水)	tanQ 株式会社 森本佑紀様 探求学習と SECI モデル

第二十四期 決算

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日

日本ナレッジ・マネジメント学会
東京都新宿区早稲田鶴巻町 518 司ビル 3F
国際ビジネス研究センター内

貸借対照表

2022 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

		資産の部	
【 流動資産】			
郵便振替口座		3,061,813	
流動資産合計			3,061,813
資産の部合計			3,061,813
		負債の部	
前受金		48,000	
未払金		10,000	
負債の部合計			58,000
		正味財産の部	
【 剰余金】			
前年度繰越		2,139,631	
当年度剰余金		664,182	
HP積立金		200,000	
正味財産の部合計			3,003,813
負債及び正味財産の部合計			3,061,813
(2022年度への繰越金 2,803,813円)			

第 24 期収支計算書

2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日

(単位：円)

I	収入の部		
1	会費収入		
	法人会員		900,000
	個人会員		972,000
	雑収入*		11,400
	当期収入合計(A)		1,883,400
II	支出の部		
1	事業費		
	研究部会費		173,400
	年次大会費		34,445
	学会誌発行費		455,367
	当期収入合計(B)		663,212
2	管理費		
	事務委託費		332,200
	通信費		76,707
	諸会費		30,000
	支払手数料		1,376
	雑費		15,723
	管理費(C)		456,006
	HP積立金(D)		100,000
	支出合計(B)+(C)+(D)		1,219,218
	当年度収支		664,182
	前年度繰越金		2,139,631
	次年度繰越金		2,803,813

剰余金処分案

2022 年 5 月 28 日

(単位:円)

当期未処分剰余金	<u>2,803,813 円</u>
----------	--------------------

これを次の通り処分する

次期繰越剰余金	<u>2,803,813 円</u>
---------	--------------------

第 2 号議案 第 24 期(2021 年度)会計監査報告の件

監査報告書

2022 年 4 月 29 日

日本ナレッジ・マネジメント学会

会長 一條 和生 殿

監事

境 健一郎 

監事

鈴木 一夫 

日本ナレッジ・マネジメント学会 第 24 期 (2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日

まで) の貸借対照表及び収支計算書を監査致しました。

監査の結果、貸借対照表及び収支計算書は会計帳簿と一致し、学会の資産、負債及び

収支の状況を正しく示していると認めましたのでここに報告致します。

以 上

第 3 号議案 第 25 期(2022 年度)活動計画及び予算案承認の件

第 25 期(2022 年度)活動計画

I. アドミチームの活動計画

1. 総務会計

(1)会員総会

2022 年 5 月 28 日 (土) に第 25 回年次総会をオンライン (ZOOM) で開催する。

(2)理事会

年度内数回開催する。(7 月、9 月、11 月、1 月、3 月、5 月を予定)

(3)会員フォロー

法人会員向け集いの会企画運営

個人会員向けフォロー施策の検討、実施

2. 大会・研究会

2022 年秋に第 25 回年次大会を開催する。

3. 海外

(1)KMGN ネットミーティング参加 (2-3 か月に一度程度の頻度)

(2)KMGN 世界大会参加 (秋頃)

(3) KMGN からの依頼事項対応 (訪日など)

(4)海外ジャーナル投稿、海外学会発表支援(ノウハウ、補助金など)

海外ジャーナル投稿、海外学会発表に関して、理事会で審議する

(5)海外 KM 関連学会、大学などの教育研究機関への訪問、意見交換

(6)海外から有名教授、経営者を招聘し講演会を行う

4. 学会誌

(1)『ナレッジ・マネジメント研究 第 20 号』 発行準備

(2)『ナレッジ・マネジメント研究 第 21 号』 投稿締切：2022 年 11 月 30 日

5. 広報

(1)学会 HP 再構築と適切な運営

- ・ルーティンである更新業務全般を行う
- ・HP 大規模改修を計画実施する

(2)メルマガ、或いはそれに代わる新しい情報伝達の手段の再構築と適切な運営

- ・偶数月 (6 回) の定期発行
- ・定時会員総会および年次大会のための臨時号の発行

- ・メルマガの抜本的改革の推進：アンケート結果に基づき内容とツールの検討

6. 渉外

- (1)関係各省庁等へのアプローチを実施し、交流を深める。
- (2)他学会へのアプローチを実施し、交流を深める。
- (3)研究部会、年次大会等をフックとして、広くアプローチを実施する。

II. 研究部会の活動計画

1. 東海部会 部会長・理事 栗本英和 代表世話人・理事 大西幹弘

(1)活動計画

東海部会が行う調査研究の対象である、高成長・高収益の要件を満たす候補企業の観点と抽出を検討する。候補企業の業務実績情報等を収集し、対象企業を絞り込み、対象企業に可否を打診する。対象企業を確定した後、具体的な調査方針を決めて実施する。

2. 知の創造研究部会 部会長・理事 植木英雄 代表世話人・理事 植木真理子

(1)活動方針

・2022 年度の知の創造研究部会では、知の創造の最先端にいる企業の実務家や研究者が集い、知見と実践経験が豊富な外部講演者や部会員の報告を交えて活発な質疑・討論を行う

・テーマとしては、産学公の連携による価値共創イノベーションの社会実装、デザイン・ビジネスモデル、オープンサービスビジネス・エコシステム、AI ×脳科学と KM 研究等を深掘して KM 実践事例の分析と理論化を目指す。

(2)活動計画

- ・開催予定：第 58 回(7 月)、第 59 回(9 月)、第 60 回(12 月)、第 61 回(3 月)
- ・開催方式：オンライン (ZOOM) および、可能な限り対面
- ・実施形態：前半：会員(希望者を含む)の報告とコメンテータからの助言
後半：関連テーマのゲスト講師を招く講演、質疑討論

3. ソーシャルメディア研究部会 部会長・理事 荒木聖史 代表世話人・理事 清水美也子

(1)活動方針

日本企業発展の礎となってきた、ヒトが生み出す組織的な知の方向と機会の知の相互活用という新しい課題にどう答えを出すかを、本部会の目的かつ中心テーマとし、周辺テーマも柔軟に模索する。

(2)活動計画

開催予定：第 7 回（5 月）、第 8 回（8 月）、第 9 回（11 月）、第 10 回（2 月）

開催方式：オンライン（ZOOM）

講師：第 7 回は社会学者の古田隆彦氏を予定しております。

※以降は未定。古田氏からの紹介でリレー形式で決定予定。

4. ISO 等標準化研究部会 部会長・理事 齋藤稔

(1)活動方針

- ・ KM に関する国際標準規格の日本での利用方法(何がどう良くなるのか)を検討する。
- ・ KM に関する国際標準規格を踏まえ、各組織での標準化方法を検討する。
- ・ KM に関する国際標準規格の導入の仕方を検討する
- ・ KM に関する国際標準規格導入の際のマインドセットを検討する

(2)活動計画

以下のテーマで年 2 回程度研究部会を開催する

(A)KM 事例の研究

研究部会メンバーが関与した事例や公開されている事例を対象に、KM 国際規格に照らしての事例の掘り下げや、事例から見た KM 国際規格の補完内容の洗い出しを行う。

(B)ISO マネジメントシステムの研究

他の ISO マネジメントシステムやその適用/認証事例を対象に、KM 国際規格利用のポイントや定着のさせ方を検討する：

(C)ISO 30401/TC260 動向の把握

KM 国際規格そのものや関連する規格の新規提案/改訂の動向を把握し、研究部会の内容に反映する。

(D)関連機関との関係維持・強化

国内審議機関(日本規格協会),関連省庁(経産省)との関係を維持し、適宜情報交換等を行う。

(3)研究部会開催予定

第 15 回～17 回 2022 年 6 月 ISO 30401:2018/Amd 1 英和对訳版 校正

研究部会メンバー対象

第 18 回 2022 年 7 月 19 日「コロナ禍におけるイノベーション(マネジメント)」仮題

実践ナレッジ・イノベーション研究部会との合同開催

第 19 回 2022 年度後半「標準化とナレッジ・マネジメント」仮題

新産業革命研究部会との合同開催

5. 新産業革命研究部会 部会長・理事 田原祐子 代表世話人・理事 田村直樹

(1)活動方針

- ・ Industry 4.0、Society5.0 等に代表される、新たな時代における KM の意義と価値を発信する。
- ・ オープンイノベーションの発想で、[KM+New] の組み合わせで、新たな価値を共創・創造する。何等かの成果物が生み出された場合は、著作・論文等の形で発表し、当学会の付加価値向上に貢献する。

(2)活動計画

- ・ 部会長、代表世話人、世話人の 4 名により、各 1 回、年 4 回の研究部会を実施する。

6. 実践 SDGs 経営研究部会 部会長・理事 高山千弘 代表世話人・理事 矢澤洋一

(1)活動方針

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) 事務局と連携し、GCNJ 参加企業と共に SDGs の推進に取り組み、知識創造理論を使って各企業の SDGs 活動の実践、定着の研究・支援を目指す。

(2)活動計画

- ・ GCNJ との研究部会の共同開催
- ・ GCNJ や参加企業からの講師派遣による研究部会の開催
- ・ GCNJ 参加企業との対話を通じた新たな活動の検討

7. 実践ナレッジ・イノベーション研究部会

部会長・理事 西原文乃 代表世話人・理事 穂積義剛

(1)活動方針

2022 年は、昨年に引き続き、(1)知識創造を通じて社会課題を解決する Social Innovation と、(2)ナレッジ・マネジメントを自組織で進められるようにする企業実践を 2 本柱として、実践事例の研究、体験体感の実施、研究結果の纏めを行う。
また、アドホックなセミナーやイベントも適時適切に開催する。

(2)活動計画

2~3 カ月に一度第 3 火曜日午後 19:30 から、オンライン (ZOOM) で開催する。状況を見ながら、対面での開催を検討する。

第 25 期(2022 年度)予算案

第25期（2022年度）予算案 2022年4月から2023年3月まで					
(単位：円)					
				2022年度予算	補足
1.収納の部					
1-1.	会費収入	法人会員	800,000	8社*8口	
		個人会員	920,000	8,000円*115名	
1-2.	雑収入		0		
	収入合計		1,720,000		
2 支出の部					
2-1.	事業費				
		研究部会	280,000		
		年次大会	200,000		
		学会誌発行費	500,000		
		事業費 計	980,000		
2-2.	管理費				
		事務委託費	330,000		
		外注費	30,000		
		通信費	70,000		
		消耗品費	10,000		
		海外活動費	210,000		
		HP関連費用	44,000		
		HPリニューアル費	1,100,000		
		諸会費	30,000		
		雑費	10,000		
		予備費	30,000		
		管理費 計	1,864,000		
	支出 合計		2,844,000		
	今期収支		-1,124,000		
		前期繰越金	2,803,813		
	次期繰越金		1,679,813		